

CR (絶滅危惧 IA 類)

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

フチトリゲンゴロウ

Cybister limbatus (Fabricius, 1775)

カテゴリー判定基準 : A-2; B-1, 2, 3

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	CR+EN	CR+EN

南西諸島に分布するゲンゴロウ類の最大種である。おもな生息環境である池沼の消失や悪化、採集圧により絶滅寸前の状態であることから、国内希少野生動植物種に指定され、捕獲や譲渡が禁止されている。

Cybister limbatus is the largest species of diving beetle distributed to the Ryukyu Islands. Since the deterioration and loss of swampy area is the main habitat, is a state endangered by collecting pressure, it has been specified in the domestic rare wild plant and animal species based on the Act for the Conservation of Endangered Species of Wild Fauna and Flora.

基礎情報

■形態 体長32~37mm。背面は暗褐色でやや緑色を帯びた光沢がある。上翅側縁の黄縦紋は翅端近くでやや広がる。体下面は暗赤褐色である。

■分布域 インドネシア、フィリピン、インド、中国など南方地域に広く分布し、国内ではトカラ列島宝島以南の琉球列島に分布している。ただし、沖縄諸島における確実な記録はない。

■生息環境 貧栄養的な水質を好むと考えられ、抽水植物が繁茂する池沼に生息する。過去には水田で確認された記録もある。

■生活史 幼虫、成虫ともに肉食性でおもに昆虫類を捕食する。繁殖期は7~8月である。

現在の生息状況

■分布域の現況 八重山諸島の西表島では、1990年中頃までは複数の産地があったが、現在は全く確認できず絶滅したものと考えられる。他の島も同様であり、2010年以降にも本種が確認された地点はごくわずかで、個体数も少ない。

■生息地の現況 生息地そのものの消失が著しく、残る池沼も干ばつや水質汚濁、外来生物の侵入により生息地としては適さなくなっている。

存続を脅かす要因

開発による湿地の消失 (15-1)、ため池のコンクリートもしくはゴムシート護岸化 (12)、

水田の圃場整備による乾田化 (15-2) や放棄による草地化 (53) により生息環境は減少傾向にある。温暖化にともなう干ばつの多発化 (55) も脅威である。また農地の多投肥による水質汚濁 (31) や農薬汚染 (32) も生息域を制限する要因になっている。本種は大型で人気があり、愛好者による採集圧による影響 (41) も大きい。

保護対策の現状

国内希少野生動植物種。

特記事項

とくになし。

参考文献

- 東清二, 2005. フチトリゲンゴロウ. 沖縄県文化環境部自然保護課 (編), 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 (動物編), pp. 233-234. 沖縄県文化環境部自然保護課, 沖縄.
北野忠・唐真盛人・水谷晃・崎原健・河野裕美, 2010. 西表島における大型ゲンゴロウ類の生息状況. 沖縄生物学会誌, 48: 113-120.
前田芳之, 2003. フチトリゲンゴロウ. 鹿児島県環境生活部環境保護課 (編), 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物動物編 -鹿児島県レッドデータブック-, p. 169. トップコピー, 鹿児島.
森正人・北山昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 東京. 231pp.
佐藤正孝, 2006. フチトリゲンゴロウ. 環境省自然環境局野生生物課 (編), 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レッドデータブック- 5 昆虫類, p. 67. 財団法人自然環境研究センター, 東京.

執筆者: 斎部治紀 (神奈川県立生命の星・地球博物館)・北野忠 (東海大学教養学部)・中島淳 (福岡県保健環境研究所)・丸山宗利 (九州大学総合研究博物館)